

世界の貝類展

大山 桂

日本貝類学会は今年で35周年を迎えて世界の貝類展を開催した。会場は日本橋白木屋百貨店催物場で期間は5月15日から22日までの8日間国立科学博物館と共催で開催された。筆者も貝類学会理事の1人として展示の企画に尽力した。会場入口からすぐの所に丸いゲートがありその両側には海と空を描いて自然をまね入口からゲートまでおよびゲートの先には床に大理石の細粒を敷いて白砂の海岸の気分を出させた。白砂の上には美しい雑貨を並べまたミゾゴケで鉢をおおったヤシの鉢植えを置いたり南洋の巨貝 シヤコ貝をおいて一般の人が楽しむ雰囲気をかもしだした。美しい貝を拾いそうになる子供にそれを止めようとする母親の姿も見られその効果はじゅう分であったといえる。ゲートを入った突き当りには丸い窓の中に大形の貝類をその色と対象的な色彩光線をあて天然の美造化の妙を示した。

この展覧会には皇居内生物学ご研究所からのご出品物に天皇陛下ご発見の新種ミタマキガイ(*Glycymeris imperialis* Kuroda) ハヤマエビス(*Calliostoma hayamanum* Kuroda)のほかオキナエビス〔*Mikadotrochus beyrichi* (Hilgendorff)〕クラマドガイ〔*Ephippium sella* (Gmelin)〕等が展示された。

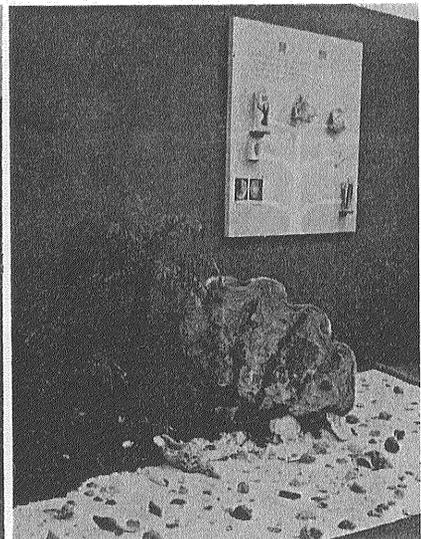
一般の貝類としては会場に入ってからすぐの所にホネガイ

類(*Murex*)を置いた。そこにはタタミ1畳敷き大のホネガイの写真があるので写真の貝を忘れぬうちにと置いて並べた。この類は色よりも形を觀賞する貝類だが案外効果的であった。丸い窓の左側にはこの展覧会で最大の見ものタカラガイ オキナエビス イタヤガイの類を展示した。これらの中タカラガイ類にはあるアメリカ人がくるま1台と交換したテラマチダカラ(*Erronea teramachii* Kuroda)も展示されていた。オキナエビス類には今までに世界で2カ所でしか採集されなかったテラマチオキナエビス(*Mikadotrochus teramachii* Kuroda) (10頁右写真の下段後列右)がある。これは南アフリカから採取されたアフリカオキナエビス(*Mikadotrochus africanus* Tomlin) (10頁右写真の下段後列左)にごく近似するが分布の上でかけ離れているので生物地理学上注目される種類である。また後で述べるがわが国ではじめて発行された貝切手に選ばれたベニオキナエビス(*Mikadotrochus hirasei* Pilsbry) (10頁右写真の下段前列)もこの類である。イタヤガイやホタテガイの類は二枚貝の中でもっとも美しい貝類で活発に泳ぐ貝として知られている。

オキナエビス等のケースのわきにソデボラやクモガイのケースがある。この仲間には西インドで普通の觀賞用の貝ピンクガイ(*Strombus gigas* Linnaeus)がありそのほか色も形もさまざまな類である。この類



展覧会場の入口



砂浜のデザインと貝類の系統

は動きが よちよち歩きに似ており 酔った人の歩き方を連想しておもしろい。 殻を上に向けて フタで地面を叩いてはねかえるのである。

この展覧会の第2の見どころは リュウグウボラ (*Voluta*) の類である。 この類は美しいが高価で 金持ちの道楽として集める貝である。 このエキゾチックな貝がずらりと並んだ様は壮観である。 この中には アラフラ海の真珠貝採集の潜水夫が ブランデー 1本と交換するブランデー貝 (*Cymbiola bednli*) (11頁左下写真の前列下段左から2番目)がある。 サクラガイ類 (*Tellina*) も美しい貝類の一つである。 この小さなサクラガイ (*Tellina nitidula* Dunker) カバザクラ (*Tellina iridella*) も約30個出品したが 観客から好評を博していた。 イモガイ類 (*Conus*) も美しい巻き貝の1つであるが 比較的単調な感じを受けて気がかりではあったが 中央に大きく美しい二枚貝 ショウジョウガイ類 (*Spondylus*) をおいて展示の効果を増した。 これらのほかに サザエ類 (*Turro*) アワビ類 (*Haliotis*) トリガイ類 (*Cardium*) など多くの美しい貝類が展示された。

会場には 世界の貝類の分布図があり 標本をはりつけて分布を示した。 これは海の貝と陸の貝の2図で示された。 陸産の貝類はカタツムリの類で 一般に大きさ 色からいっても海産の貝類に劣るが 外国のカタツムリには美しいものが少なくない。

貝類に関する美術工芸品の横綱は何と云っても真珠である。 御木本真珠店が真珠とその養殖に関する陳列をした。 とくに1939年ニューヨークの万国博覧会に出品

した純銀の生地にダイヤモンドと真珠で飾った自由の鐘 (100万ドル 模型) は わが国では初めての出品で 顧客は驚嘆の目を見はった。 そのほか マドガイのシャンデリア トウカムリの鍋 貝で作ったノレン その他の工芸品や貝合わせのハマグリとその容器 (貝桶) 貝の貨幣なども展示された。

工芸品のほか 貝と文学 貝と切手のケースも展覧会場をにぎわした。 貝類の詩歌を色紙に書いて壁にかけ その下に詩歌にでる貝類を並べた。 また外国の貝切手とそこに描かれた貝類標本も多数陳列してあった。 行幸を記念して ペニオキナエビスの普通切手が発行され 会場に郵便局出張所を設けて発売され 初日のスタンプを求める切手収集家の列でにぎわった。

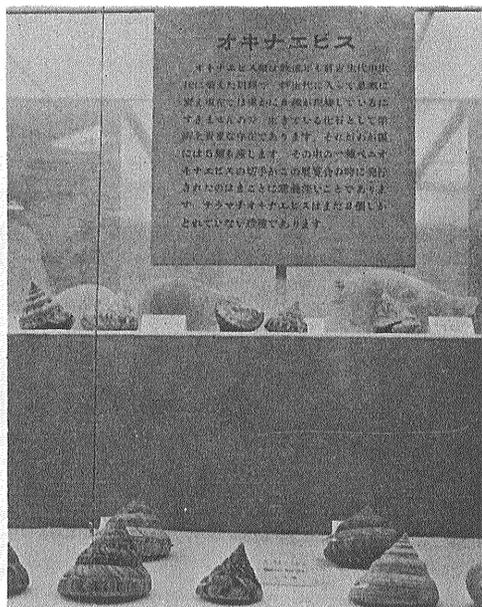
会期の初日 (5月15日)には行幸啓があり 開店時間前の白木屋百貨店に小雨降る中を天皇 皇后両陛下がお見えになり 日本貝類学会員は会場入口でおむかえした。 科学博物館の岡田要館長のご先導により担当の理事がご説明申し上げた。 学会在京理事は 本誌 (No. 101 1月号) ですでに紹介した 河村・中上川・波部・大山の他に新たに選挙により 横浜国立大学の鹿間時夫博士と 鉱物収集家として名高い 桜井標本館の桜井欽一博士とが増員になった。

最終日 (5月22日)には 皇太子殿下がお見えになり 岡田館長のご先導で 学会理事がご説明申し上げた。 また午後4時半頃には 義宮様がお見えになり 波部・桜井・大山の3理事がご説明申し上げた。

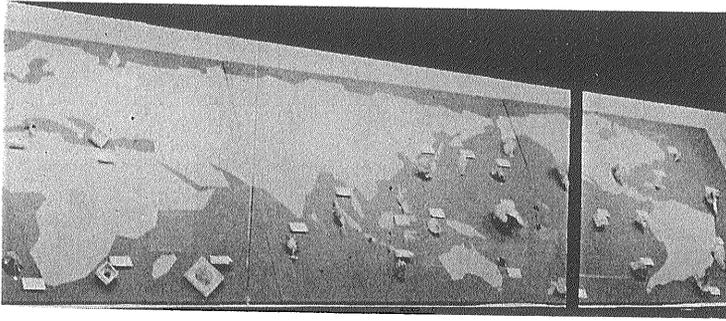
(筆者は 地質部)



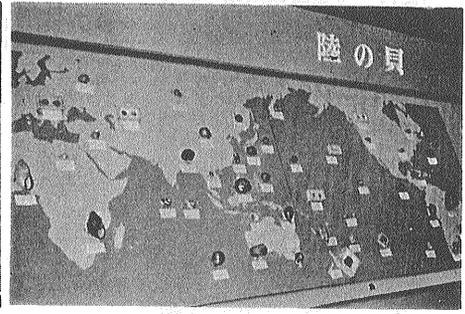
皇居生物学研究所から出品になった品々 台上はオキナエビス



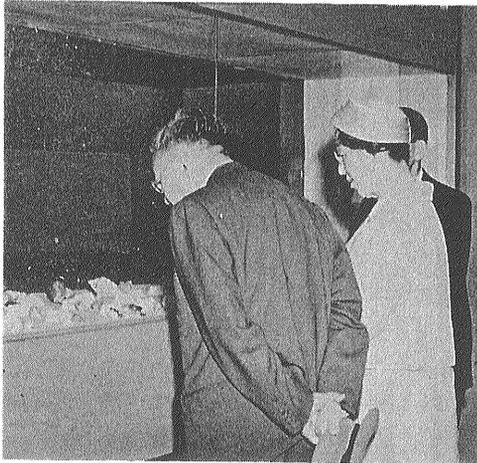
オキナエビスの類



海の貝の分布図



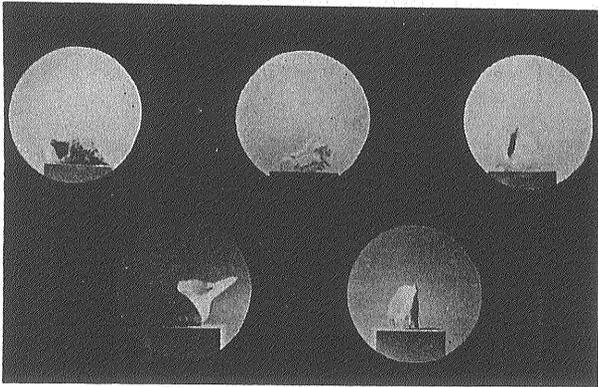
陸の貝の分布図



クモガイ類をごらんになる天皇・皇后両陛下



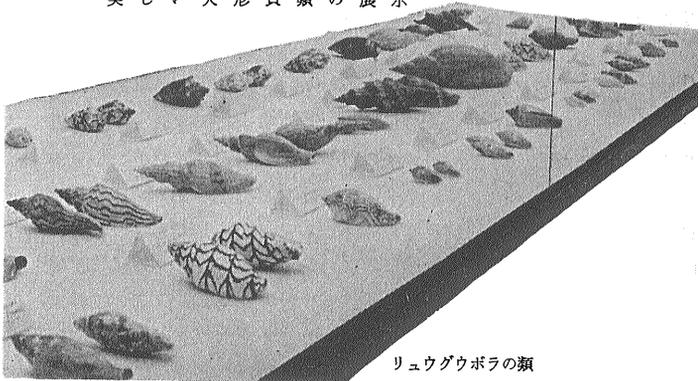
リュウグウボラ類をごらんになる皇太子さま 左から大山技官 皇太子さま 岡田博物館長 白木屋店長 波部理事 桜井理事



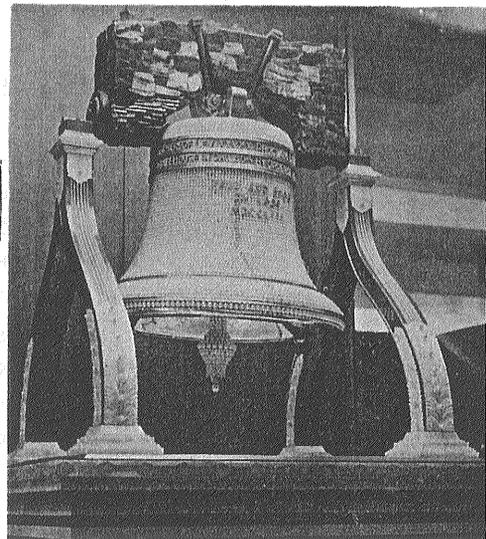
美しい大形貝類の展示



陸の貝 淡水の貝を一般観客に混ってごらんになる義宮さま



リュウグウボラの類



真珠とダイヤモンドで飾った自由の鐘